

【令和元年度 四市少年野球クライマックスシリーズ 試合規定】

大会ルールは、公認野球規則・全日本軟式連盟学童の部の規則に準じて行う。

1. 大会1日目は、開会式及び1回戦を行う。
2. 大会2日目は、2回戦を行う。
3. 大会3日目と4日目は、決勝戦(準決勝)及び閉会式を行う。
4. 審判は、全試合を各連盟の審判員が行う。
5. 3位決定戦は行わない。準決勝敗退2チームは3位とする。
6. 試合は7イニングを行い勝敗を決する。
7. 全試合7イニングを原則とし、勝敗の決しない場合は特別ルールで勝敗を決める。

※特別ルール(タイブレーク方式)

継続打者とし、前回の最終打者を1塁走者、順次前の打者を2塁走者・3塁走者として...無死満塁の状態で行い、得点の多いチームを勝ちとする。

最高2イニングを行っても、なお同点の場合は、最終出場選手9名ずつによる抽選を行い勝者を決定する。

ただし、決勝戦は勝敗が決まるまでタイブレークを繰り返す。

8. 5回以降、7点差以上生じた場合はコールドゲームとし、日没・降雨によるコールドゲームの成立は5回(4回 1/2)とする。
9. 試合球は「公認健康ボールJ号」とし、各チーム1試合2個抛出する。
10. ベースは移動固定ルールとする。各塁のベース板は地面に固定する。
ホームベースは球場の備え付けベースを使用する。(大人用ホームベースの場合でもそのまま使用する。)
11. 投手の投球練習は、初回と交代時は7球とし、他は3球とする。
12. 好ましくない野次に対しては、審判員は積極的にそのチームに注意を与える。
13. 選手の交代や抗議は監督のみとする。
14. 投手は変化球を投げてはならない。
15. 試合スピード化のため攻守交代は駆け足で行う。実行しない時は注意を与える。
16. 試合中は、内野手間の転送球(ボール回し)は禁止する。
17. プレイヤーが負傷などで治療が長引く場合、試合のスピード化をはかるため、審判が必要と認めた場合、臨時代走(コーテシーランナー)を出して試合を進行させる。
試合に出ている9人の中から打順の前位の者が代走となる。(ただし投手を除く)
18. 試合後のグラウンド整備は、試合の終わった両チームで行う。

【大会特別規定】

1. 選手登録

選手登録は20名以内を厳守し、違反した場合は大会本部の判断で一方的に削除する。

2. 開会式

開会式(閉会式)は登録選手全員で参加する。違反した場合は失格とする。
傷病などによる止む得ない欠席は、必ず大会本部に申し入れ承認を得ること。

3. 投手の投球制限

投手の投球については、1日7イニングを限度とすることが望ましい。
(サドンデスを除く)

4. 試合集合時間

試合開始時刻は指示された時間を厳守し、集合は試合開始1時間前とする。

5. グラウンド(本球場)への立ち入り

グラウンドには登録された人しか入れない。